

■学校経営のポイント

新教育課程を推進する学校経営の構想

小島 宏

令和2年度からの新学習指導要領に基づく学校教育を効果的かつ円滑に推進するためには、「質の高い教育活動と働きやすい学校運営」を目指した校長の確たる学校マネジメントが不可欠である。

教育諸課題の確認

まず、校長は、「質の高い教育活動」を行うために、現在及び近未来における社会及び教育の諸課題を確認し、学校がどのような状況の中にあるか確認する必要がある。

その主な事柄は、資質・能力の3つの柱及び学習評価、主体的・対話的で深い学び、外国語教育、道徳科の指導と評価、いじめ・不登校・問題行動、子どもの貧困、情報活用能力、UD(ユニバーサルデザイン)、ESDとSDGs(持続可能な開発のための教育と開発目標)、キャリア教育、言語力・文章力、AI(人工知能)、働き方改革、Society5.0などである。

自校の諸課題の把握

次に、質の高い教育活動と働きやすい学校運営の視点に立ち、資質・能力の3つの柱及び学習評価などについて自校の諸課題を把握し、その対応策を検討することが必要になってくる。

特に、「社会に開かれた教育課程」及び働き方改革との関連で十分に検討したい。

学校評価の結果の確認

質の高い教育活動を実現する学校運営を考える際に、学校評価(自己評価、学校関係者評価、第三者評価)の結果を確認し、次の4つの視点を踏まえると効果的である。

- よい点をよりよく継続
- 課題の原因を特定し、改善策を策定
- 無理・無駄の廃止
- 不足を補うとともに新しい挑戦に向けた新規導入

学校経営の明確なイメージ化

校長として、学校の教育目標及び達成するための基本方針、それを実現する学校経営の具体的な進め方等を、明確化することが重要である。

その際、要点を箇条書きにする、構造図に表現してみるなど、視覚化すると効果的である。

成果を見通した学校経営案の作成

成果を見通した具体的な学校経営案を作成するには、例えば次のような項目を立てていくとよい。

- ①学校経営の基本理念、②目指す学校像(子どもとの関わり、教職員との関わり、保護者・地域との関わり)、③学校経営の基本方針(子どもに開く、教職員に開く、保護者・地域に開く)、④学校経営の努力点(「子どものためになるか」が判断基準)、⑤信頼と互助の気持ちで励み合い、子どもの願い・保護者の期待に応える学校の方針、⑥学校経営の校長の姿勢(最終の責任は校長がとるなど)。

素案の公開と意見聴取

学校経営の基本方針を校長と教職員が共有し、その実現に向けてチーム学校として取り組むことが大切である。そこで、教職員には、素案の段階で公開し、それぞれの立場から意見・感想などを聴取し、有益なものは取り入れるようにする。

このことによって、教職員が学校経営を自分事として捉えるようになり、「質の高い教育活動と働きやすい学校運営」の実現に向けて、意欲的に取り組んでいく「意識改革」にも効果が期待できる。

また、PTA役員会や地域住民(学校評価協力者など)にも素案を示して意見・感想を聴取し、建設的なものを考慮し、連携・協力の関係をさらに強めるようにすることにも意を用いたい。

(こじま・ひろし=元東京都立小学校長・(公財)豊島修練会理事長)

●校長・教頭のための学校経営手帳！ PDCAが回る！ 《好評発売中！》

2020 スクール・マネジメント・ノート

【編集】教育開発研究所 A5変型判／定価(本体 2,400円)＋税

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>をご利用ください。

